

# この体験を明日へ生かしたい

## 青少年海外派遣事業体験発表会が開催されました

平成 26 年度青少年海外派遣団は、平成 26 年 7 月 24 日から 8 月 6 日までタスカルーサ市を訪問し無事に帰国しました。この青少年派遣生の体験発表会及び派遣団解団式が平成 26 年 8 月 29 日(金)午後 1 時から実施されました。

当日は、斎藤習志野市議会議長、由利習志野高等学校校長及び各高等学校関係者を来賓に迎え、派遣生ご父兄及び NIA 海外派遣事業関係者が出席しました。

山口派遣団団長は「今回実施した派遣事業は、これに先だって訪日したタスカルーサ市青少年訪問団との交流からスタートしました。またタスカルーサ市で訪問した市内 3 高等学校やその他の施設を含む日程は、我々派遣団が楽しく研修できるよう企画されており、素晴らしい体験ができたと思う」と報告されました。

体験発表は時間の都合で一人 3 分以内という短い時間の制約がありましたが、発表に込められた異国での体験は、言葉では言い表すことができないといった迫力がありました。

派遣生たちは、習志野市に比べて 5 倍強もの広大な面積を持つタスカルーサ市の自然にこころ打たれ、グラウンド設備等に恵まれた教育施設や、アラバマ大学アメフトチームが公式試合で使用する 10 万人を収容するブライアント・デニー・スタジアム等その規模の違いに感動したようです。

その他派遣生からは、「温かいホストファミリーのおもてなしに感謝し、そこでしか体験することができないことを学び、素直に受け入れることが出来た」、「異文化に接して、自らの生活を見直すきっかけになった」、「更なる語学(英語)学習と、これからの国際交流への意欲が大きくなった」、といった感想が述べられました。

解団式の後、記念写真を撮影して解散となりましたが、その後しばし会場は四校の垣根を越えて親しき友となった大小の輪ができ、会話が弾み、出席者は再会を約束して会場を後にしてゆきました。

(報告 尾黒治夫 国際交流部会長)



体験を熱を込めて語る派遣生



出席者による記念撮影